

令和4年10月17日
西部農林水産振興センター 県央事務所 邑智農業部

標 題 | 肥料コスト低減に向け、農業部とJAが連携して土壌分析を実施中！

(ダイジェスト)

邑智農業部とJAしまね島根おおち地区本部では、肥料価格高騰を鑑み、価格高騰の影響が大きい「りん酸」「加里」を抑えた肥料の利用に向け、9月下旬より管内の水稻生産者を対象とした土壌分析を始めました。

JAしまね島根おおち地区本部（以下、「JA」）では、昨今の肥料価格高騰により農業者の所得減少が懸念されることから、特に水稻の生産コスト低減を目的に ①堆肥の有効活用、②りん酸・加里を抑えた施肥体系の検討・利用、③「りん酸・加里を減肥するためのチェックリスト」の活用、④土壌分析に基づく効果的な施肥の実施 を取り組み事項に挙げ、今夏より検討・実施を始めたところです。

このうち、「④」については、肥料価格高騰の影響が大きい「りん酸」「加里」の適正な施肥が重要であることから、当農業部とJAが連携し、分析結果に基づく効率的・効果的な施肥を目的に、水稻における土壌分析を始めました。

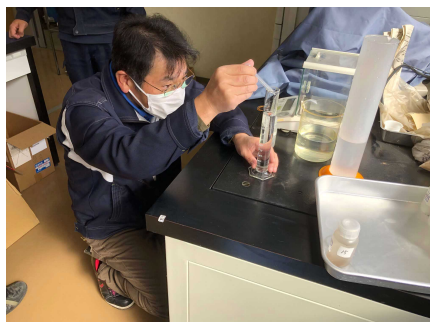
分析にあたっては、農業部・JAで以下のとおり「役割分担」をしながら実施しています。

実施項目	対応機関	備 考
分析実施の周知	JA	8月の外勤日を利用
サンプルの収集	JA（生産者が提出）	10月20日まで受付
分析の実施	農業部・JA（営農指導員他）	試薬はJAより提供
分析結果の取りまとめ	農業部	
※対象生産者	・法人等TACが訪問する担い手： JA（全農で分析） ・その他の水稻生産者：農業部	いずれも無料で分析

分析は農業部の「SPAD（土壌・作物体総合分析計）」を用い、農業部職員1名＋JA職員2名の体制で実施しており、約1,000点を11月20日までに終了する予定です（10月13日現在で111点実施済み）。

分析結果については、各生産者に「処方箋」を付して伝えるとともに、今後開催予定のJAの「水稻冬季座談会」等を通じて分析結果に基づく効率的・効果的な施用について説明していくこととしています。

10月から実施された「肥料価格高騰対策事業」も相まって、今後は分析件数が増加していくことも想定されます。肥料価格は依然、高止まりすることが懸念されますが、この機会に今一度、土づくりの重要性と適正な施肥について再認識し、更なる水稻生産の向上に繋がっていけば良いと考えます。



【土壌分析の一場面①】



【土壌分析の一場面②】



【土壌分析の一場面③】